



市民の声を市政に反映

杉森ひろゆき

市議会議員 ニュース

杉森弘之後援会広報委員会発行
684号 2017年11月14日
 〒300-1235 牛久市刈谷町1-41-8
 TEL・Fax : 870-0335
 携帯 : 090-5587-7693
 Mail : sugimori@max.hi-ho.ne.jp

奥州市視察研修

地域6次産業化ビジョン

杉森議員が幹事長を務める市議会
 会派「市民クラブ」は10月10～13
 日、岩手県奥州市、八幡平市、青森県
 むつ市を視察研修し、各担当者からの
 説明と質疑応答と、関連施設と議場を
 見学。奥州市では地域6次産業化ビ
 ジョンについて視察研修しました。

奥州市は、水沢市、江刺市、前沢町、胆沢
 町、衣川村が2016年に合併して生まれた市で、
 元の各市町村の名前はそれぞれ前沢牛、江刺
 リンゴなどで有名だが、奥州市の名前をどの
 ように広めるかが課題とのこと。

大谷翔平選手の出身地

奥州市の面積は993km²で、人口は約12万人。
 産業は、稲作と中心に複合型農業を柱に、交
 通の便の良さを背景に商業施設、工業団地等
 が整備され、伝統産業や基幹産業が事業展開
 している。プロ野球で人気の大谷翔平選手出
 身地としても知られる。

農林畜産物の高付加価値化

奥州市の地域6次産業化の目的は、「本市の
 基幹産業の農業を基軸に、異業種産業との連



携により、農林畜産物等の高付加価値化を図
 り、新しい内発型ビジネスモデルの創出と地
 域農業の可能性を広げ、地域ぐるみの産業振
 興の実現」を図ることにある。

民間人を含めた策定チームが作成した基本
 理念は、「食の黄金文化・奥州」。

「食の黄金店」認定事業も

具体的な事業として、①提案モデル事業補
 助金、②補助金交付者等へのフォローアップ、
 ③う(米)のおうしゅう「食の黄金店」認定事
 業、④職の黄金文化・奥州料理コンクール、
 ⑤同優秀作品国体会場販売、⑥奥州食の黄金
 文化祭2017 おやつフェスティバル、⑦おう
 しゅう旅浪漫HPの充実、⑧食の黄金文化情
 報(PV)発信、⑨食の黄金文化・奥州輝かせ
 隊などがある。

これらの事業の財源は年間約2千万で、全
 額国の補助事業だそう。年数が限られてい
 るため、今後の独自予算による事業展開はさ
 らなる工夫が必要だ。

ホテルや銀行によるPR応援、市内業種三
 者が連携したお酒「奥州光一代」、お米からの
 エタノール作成、田んぼアートも始まった。

2017年第4回 牛久市議会定例会予定 (開会時刻はすべて10時)

11/30	木	開会、議案提案理由説明
12/4-6	月-水	一般質問
12/7	木	議案質疑、委員会付託
12/8	金	総務常任委員会
12/11	月	教育民生常任委員会
12/12	火	産業建設常任委員会
12/14	木	質疑・討論・採決、閉会

大津市議会の挑戦

議会図書室の機能強化を

全国市議会議長会は議会図書室の機能強化を重視し、全国市議会旬報2027号で、以下の大津市議会局次長の清水克士氏の報告を掲載している。

レファレンス機能を中心に

大津市議会は議会改革を進めており、23年度から大学との連携をテコとして、政策立案の強化を目標に掲げてきた。

一方、当時の議会図書室は、蔵書に古い図書や他市の議会史などが多く、物置状態であり、ほとんど使用されず倉庫化していた。テレビにも放映され、市民からも批判された。塚田洋・国立国会図書館勤務、土山希美枝・龍谷大学教授を講師に招き、議員研修会を開いた。蔵書整備ではなく、レファレンス（調べ物のお手伝い）機能を重視すべきという内容だったが、当時は議員の理解を得るには至らなかった。

全国初・大学図書館との連携

改選後の27年7月、議運で三重県議会（司書によるレファレンス）、鳥羽市議会（県立・市立図書館との連携）を視察。議会基本条例に議会図書室の充実強化を定めた。

また、改革を後退させないため、市民に公開している、議員任期の4年間で行う議会版実行計画・ミッションロードマップ（27年10月始動）に議会図書室の充実を掲げた。ただし、政令市レベルの図書室整備は物理的にも予算的にも不可能であるため、全議員に貸与しているタブレット端末の利活用、大学との連携を進めていくこととした。

28年4月、パートナーシップ協定を結んでいる龍谷大学と図書館（蔵書約215万冊）の連携を開始した（大学図書館との連携は地方議会では全国初）。大学とは協定があったため、図書館の連携も容易だと考えていたが、一筋縄ではいかず、紆余曲折の末、連携が可能となった。各議員に利用カードを配布し、学生

と同様に、貸し出し、レファレンスなどを各自で受けられるようにしている。大学図書館との連携のきっかけは、市立図書館（蔵書約79万冊）には一般質問に資するレファレンスができる図書館職員はいなかったため。しかし、高度なレファレンスは難しいが、地理的にも近く、迅速な蔵書の活用ができる市立図書館との連携も開始した。

図書室担当はチーム制

議会内の整備では、議員が打ち合わせなどを行うサロンに図書コーナーを設置し、トピックス的な本を置いた。議会図書室は古い図書を廃棄し、蔵書数は非常に少ないが、鮮度にこだわり、議員ニーズの高いものを選書している。詳しい資料は大学図書館に任せ、スペースなどにも限りがあり、あれもこれもはできないので、割り切って進めている。

議会局（正職員16人）の規模の場合、誰が図書室担当（1人）になるかが問題となり、また、図書室業務は後回しになりやすいため、**チーム制（①選書・レファレンス、②資料管理、③インテリア、④スクラップブック、⑤広報一の5チーム）**にした。このうち、広報チームが**議会図書室ニュース**を配信している。図書紹介コーナーを設け、議員に依頼し、原稿を掲載。議会の中で同ニュースがオーソライズされてきている。インテリアチームにより、図書室も刷新された。

29年3月には、ロードマップの「議会図書室の充実」を達成し、第1ステージは完了した。レファレンスの一般質問への利活用などは、実績が乏しく、まだまだこれからだが、手応えはある。一般質問にレファレンスを活用し、政策条例の作成までいきたい。

第2ステージとして、本当の意味での結果を出すため、29年度から、**プロジェクトチーム**を①レファレンス・調査活動、②資料管理、③広報一の3チームに再編して推進しているところである。